

## 第1章 事業概要

### 1 事業の名称

この事業の名称は「百合が原公園整備運営事業」（以下、「本事業」という。）とします。

### 2 事業の背景と目的

札幌市の公園は、これまでの計画的な公園整備により、憩いの場として多くの市民に親しまれておりますが、今後、限られた経営資源の中で、公園施設の老朽化への対応や、より多くの市民利用に向けた取り組みを進めていく必要があります。

このような状況から、令和2年3月に策定された第4次札幌市みどりの基本計画では、社会情勢の変化や多様化する市民ニーズを踏まえ、公園の特性に応じた利用サービスの向上や、持続可能な公園管理を行っていくため、民間活力の導入により公園の魅力向上を進めることとしております。

百合が原公園は、年間50万人が利用する人気の高い公園ですが、令和元年度に実施したアンケート調査において、「飲食を楽しめる施設」のニーズが高いなど、更なる魅力向上の可能性がある一方、開園から40年が経過しており、公園施設の老朽化や駐車場の混雑による路上駐車等の課題を有しております。

また、百合が原公園管理運営方針では、公園の特性等から、公園のコンセプト「花と緑の活動と発信の拠点となるフラワーパーク」と定め、魅力的な空間の提供、花と緑の普及啓発、コミュニティ拠点の形成、多世代利用の促進を公園の目指す方向性としており、ハード面のみならず、公園の特性を活用したソフト面の施策の充実も一体的に推進する必要があります。

これらの課題解決と魅力向上を実現するため、令和4年度に指定管理者制度を併用したP-PFI事業者の公募を行いました。背景には、新型コロナウイルスの影響や急激な物価高騰により、採算性の面で事業者の慎重な判断があったものと推測されます。

今回の公募では、こうした状況下にあっても、P-PFIによるハード面の課題解決を推進していただけるよう募集内容の見直しを図っております。

また、指定管理者は、令和4年度に公募を行い、令和5年度から管理を担っておりますが、ソフト面の課題解決に向けてP-PFI事業者と連携して推進していくこととしております。

以上を踏まえ、本事業ではP-PFIによるハード面の課題解決と指定管理者と連携したソフト面の課題解決を一体的に推進し、公園全体の魅力向上を図ることを目的とします。



写真：世界の百合広場

### 3 百合が原公園の概要

#### (1) 概要

百合が原公園は、1983年（昭和58年）に供用が開始された、面積約25.3haの北区の総合公園です。

天皇陛下御在位五十年記念事業として採択され世界の百合広場等が整備されたほか、1986年には全国都市緑化フェア「'86 さっぽろ花と緑の博覧会」が開催され、現在の温室やリリートレイン等が整備されました。

都市緑化フェアの翌年には、ロックガーデンの整備とともに、既存の温室を生かし、都市緑化植物園として位置付けられるなど、「花と緑の“活動”と“発信”の拠点となるフラワーパーク」として多くの市民に利用されている公園です。

公園名称	百合が原公園	
公園種別	総合公園	
所在地	札幌市北区百合が原公園、百合が原2丁目 百合が原11丁目	
面積	253,140㎡	
開園年度	昭和58年（1983年）	
都市計画決定	昭和47年5月17日	
整備当初の設計思想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休息、鑑賞、散策、遊戯、運動等総合的な利用を計り、その主たる利用対象は青少年及び家族向けとして造成する。</li> <li>・本公園の中心施設は記念広場とし、平和の象徴として木、花、水を取り入れた一大パノラマを創出する。</li> <li>・大震災等による緊急避難場所として、中央に大芝生広場を造成するほか、広大な中で気持ちよく、のびのびとスポーツ遊びを楽しめる場を確保する。</li> <li>・でき得る限り人工的な工作物を省き、自然の素材を最大限利用し、自然の復活を図る。</li> </ul> <p style="text-align: right;">（昭和53年 札幌市東北公園基本構想計画資料より抜粋）</p>	
主な構成要素	ガーデン・広場等	世界の百合広場、ロックガーデン、ヒースガーデン、ローズウォーク、ライラックコレクション、ピーチヘッジ、ムスカリの道、かおりの庭
	ガーデン付帯施設	サイロ、時計塔、噴水、池
	有料施設	百合が原緑のセンター温室、世界の庭園、リリートレイン
	運動・遊戯施設	パークゴルフ場（9H）、複合遊具
	アート、碑像	3カ所（花の輪と和／ひらく花／北の森たち）
	管理施設	管理事務所
	駐車場	3カ所（100台、143台、38台、大型7台）
	その他便益施設	トイレ（7カ所）、水飲み台、あすまや、パーゴラ
公園の沿革	1978(昭和53)年	昭和天皇御在位50周年事業として採択。
	1979(昭和54)年	同事業の記念広場（現在の世界の百合広場）が北海道大学農学部による「東北公園基本構想」に基づき造成開始。
	1981(昭和56)年	管理事務所完成。
	1983(昭和58)年	公園名を「東北公園」から「百合が原公園」と改称し、供用開始。
	1986(昭和61)年	全国都市緑化フェア『'86 さっぽろ花と緑の博覧会』開催。温室、世界の庭園、リリートレイン設置。
	1987(昭和62)年	都市緑化植物園（ロックガーデン）完成。造成工事終了。
	2002～2003（平成13～14）年	大温室改修
	2002(平成14)年	『第18回都市公園コンクール』管理運営部門で日本公園緑地協会会長賞受賞
2006(平成18)年	ボランティア（宿根草花壇管理クローバー）活動開始。	
2007(平成19)年	ボランティア（温室植物管理ミモザ、バラ花壇管理ローズヒップ）活動開始。	
2012(平成24)年	ガイドボランティア活動開始。	

表 1 公園の概要

## (2) 立地条件

札幌市中心部より北に約8kmの位置にあり、交通アクセスはJR学園都市線「百合が原公園駅」から徒歩7分程度、または地下鉄東豊線「栄町駅」からバスで15分ほどの距離にあり、郊外に位置する主要公園の中では、交通立地では比較的恵まれた環境にあります。(図1)

公園は市街化調整区域に立地しており、隣接する住宅地は準工業地域に指定されています。また、公園の東側約700mには丘珠空港があり、百合が原公園の一部が空港の侵入区域内に入るため、航空法により建築物の高さ制限があります。(図2、図3)

※航空法による建築物等の高さ制限は、本要項で別途定める基準以内であれば規制の対象にはなりません。



図1 百合が原公園位置図



図2 用途地域



図3 航空進行区域

### (3) 利用実態

〈市民認知度及び利用者層〉（平成 28 年度 web アンケート調査 n（調査人数）=7617）

市民認知度は札幌市の主要 15 公園中 5 番目の認知度で、明治期より市民に利用されている大通公園、中島公園、円山公園や、イサムノグチの設計により整備されたモエレ沼公園に次ぐ認知度となっています（表 2）。

年代・性別毎にみると、百合が原公園に「1 年以内に行ったことがある人」の割合は 60 代以上男性の 20.7% が最も多く、次いで 30 代男性（18.8%）、30 代女性（17.0%）となり、20 代男女の認知度が比較的低いものの、30 代の子育て世代から 60 代以上の高齢者層まで幅広く利用されています（図 4）。

表 2 主要公園の市民認知度順位（抜粋）

	認知度(%)	順位
大通公園	99.7	1
中島公園	99.4	2
円山公園	99.4	3
モエレ沼公園	98.3	4
<b>百合が原公園</b>	<b>92.9</b>	<b>5</b>
農試公園	83.0	9
手稲稲積公園	78.5	11
五天山公園	44.1	15

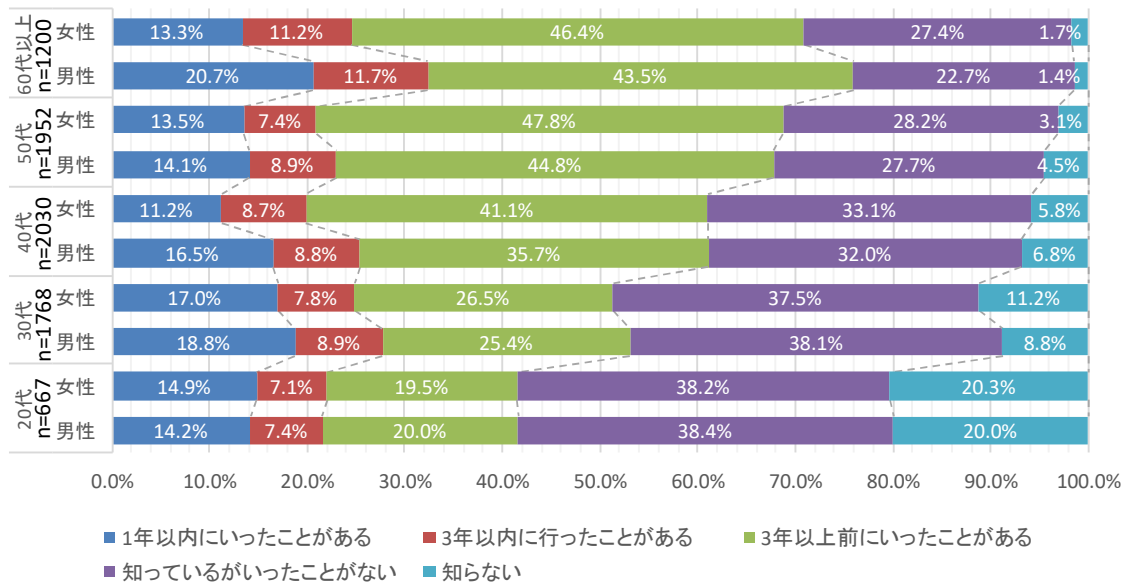


図 4 年代・性別毎の百合が原公園市民認知度

### 〈推計利用者数〉

有料施設の利用者数の推移をみると、新型コロナウイルス感染拡大前の過去 10 年間でリリートレインの利用者数は増加傾向、世界の庭園の利用者数は減少傾向となっていますが、全体の利用者数としては横ばいとなっています。（図 5）

また、KDDI の人流データ※によると令和 4 年度の利用者数は約 50 万人と推計され、開園から現在に至るまで多くの市民に利用されていることがわかります。

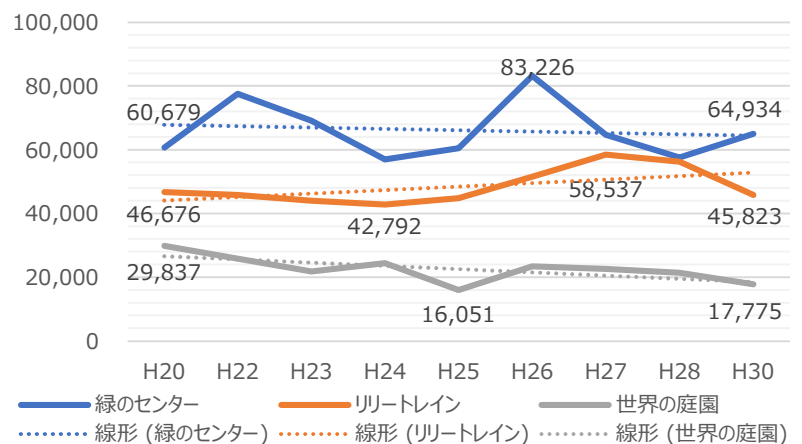


図 5 有料施設年度別利用実績

※データ提供：KDDI・技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」

※au スマートフォンユーザーのうち個別同意を得たユーザーを対象に個人を特定できない処理を行って集計



〈利用目的〉（令和元年度利用者アンケート調査 n=332）

公園の利用目的は、「散歩や休養」が最も多く、次いで「子どもを遊ばせる」、「花、庭等の鑑賞」となっています（図6）。

〈交通手段〉（令和元年度利用者アンケート調査 n=332）

交通手段は JR 学園都市線「百合が原駅」から徒歩圏の立地であるものの、自動車での来園が最も多くなっています（図7）。

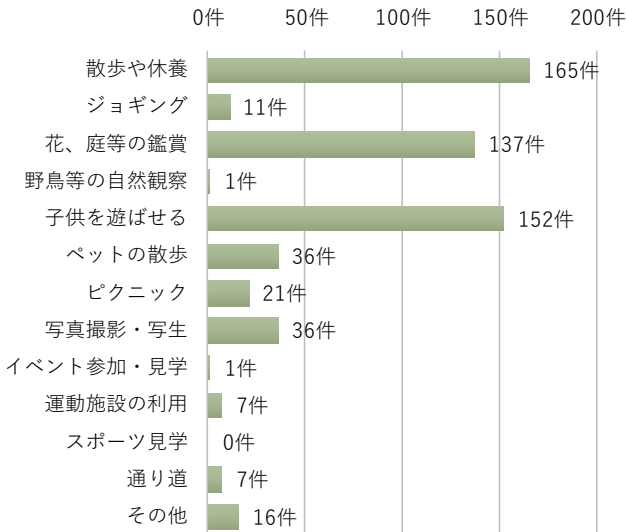


図6 利用目的

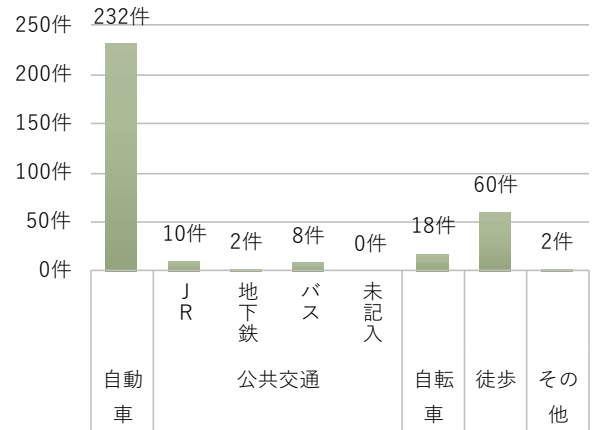


図7 交通手段

〈利用した時間〉（令和元年度利用者アンケート調査 n=332）

来園時間は13時～13時半の間が最も多く、滞在時間は1.5時間～2.5時間が半分以上となっています。また、退園時間は午後が15時～15時半の間、午前は12時～12時半の間が最も多く、昼食を伴わず退園する利用者が多いことがわかります（図8、9）。

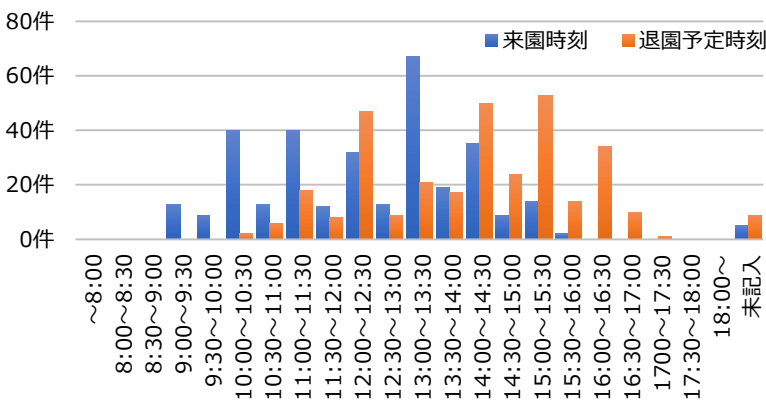


図8 利用した時間（来園/退園時刻）

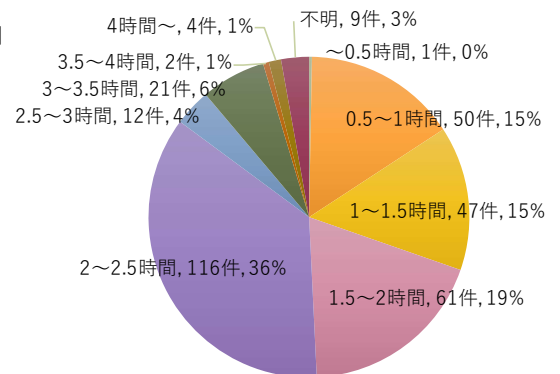


図9 滞在時間

〈利用者ニーズ〉（令和元年度利用者アンケート調査 n=332）

利用者ニーズは、「飲食を楽しめる施設」が 35.9%と最も高く、次いで「子どもが遊べる場所」（29.7%）、「雨天・冬季に集える屋内スペース」（19.8%）となっています（図 10）。

年代別に見ると、40代以上では「飲食を楽しめる施設」が最も多いですが、30代以下では「子どもが遊べる場所」のニーズが最も高くなっています（表 3）。

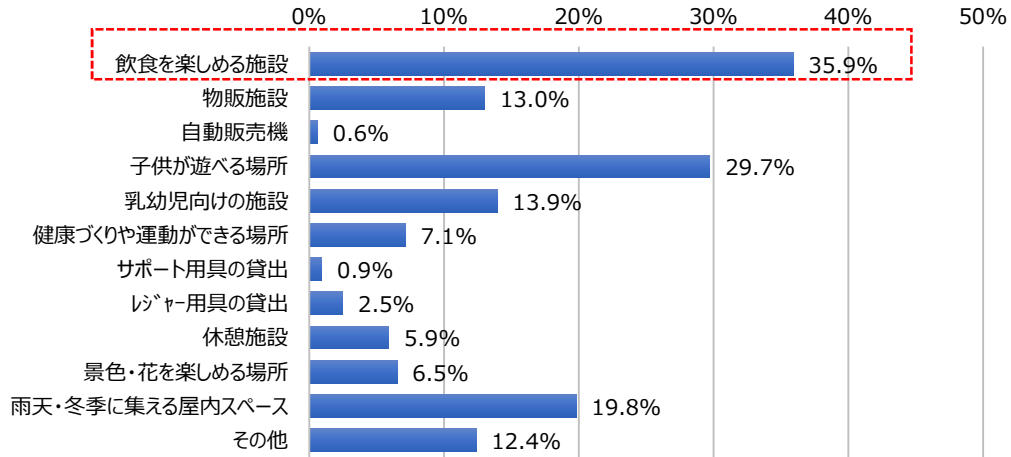


図 10 望ましい施設やサービス

	望ましい施設・サービス		
	1位	2位	3位
10代～30代 n=162	子どもが遊べる場所 (49%)	飲食施設 (43%)	雨天や冬季も集える場 (28%)
40代～50代 n=67	飲食施設 (30%)	子どもが遊べる場所 (18%)	物販施設 (16%)
60代以上 n=94	飲食施設 (29%)	雨天や冬季も集える場 (13%)	健康/運動の場所 (13%)
総合	飲食施設 (36%)	子どもが遊べる場所 (30%)	雨天や冬季も集える場 (20%)

表 3 年代別望ましい施設やサービス

#### (4) 百合が原公園管理運営方針

札幌市では、百合が原公園の魅力向上や多様な主体による持続的な管理運営を推進するため、令和2年6月に管理運営方針を取りまとめています。（参考資料2）

百合が原公園管理運営方針（以下、「個別方針」という。）では、百合が原公園の「特に重要な特性」、「コンセプト」、及び「目指す方向性」を図11のように定めています。

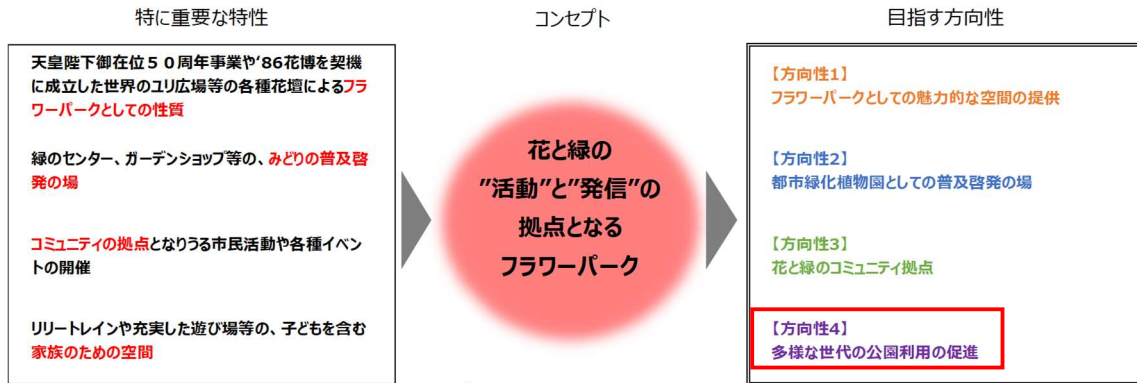


図11 百合が原公園のコンセプト等

今回の公募では、個別方針に掲げている、目指す方向性の4「多様な世代の公園利用の促進」を実現していくため、利用者ニーズに応じた施設や公園に不足している施設の整備、賑わいを創出する整備や取組により、フラワーパークに新たな魅力の創出を求めるものとなります。

#### (5) 百合が原公園「ウエルカムゾーン」の方向性

札幌市では、百合が原公園において P-PFI での整備が見込まれる区域を「ウエルカムゾーン」と位置づけ、新たな賑わいの創出に繋げるエリアとしています（図12）。

今回の公募では、「ウエルカムゾーン」の方向性を踏まえた提案を求めます。

なお、公園は全体的に老朽化が進んでいることから、今後、参考資料3「百合が原公園の改修に向けた方向性（検討資料）」に沿って改修を検討していきます。

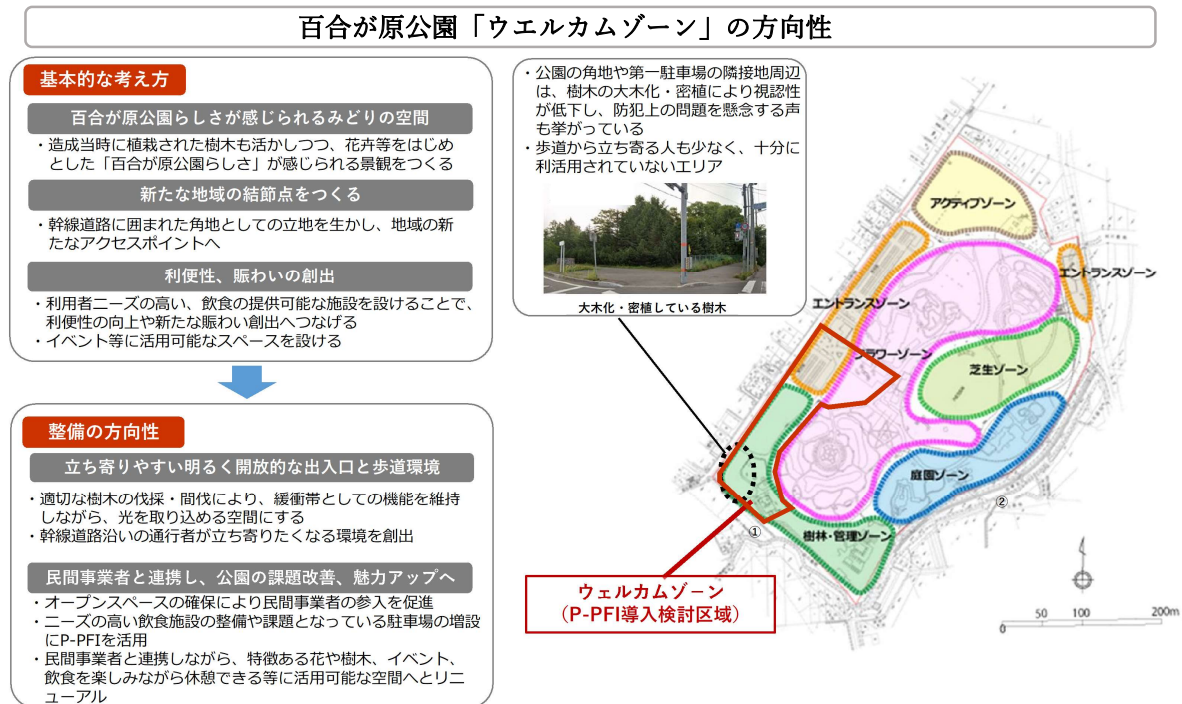


図12 ウエルカムゾーンの方向性

#### 4 事業実施体制

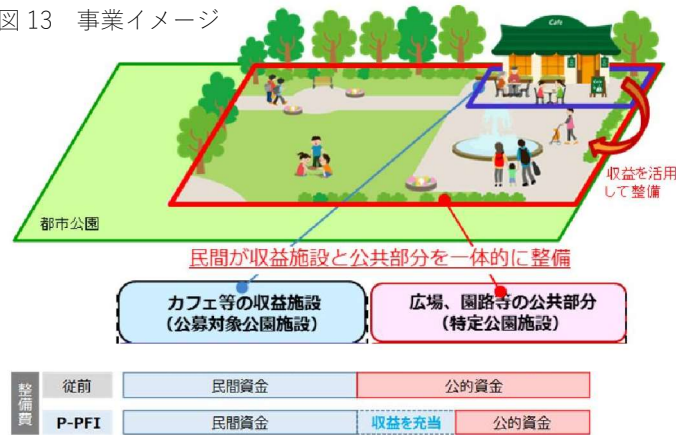
事業実施体制（表4）とイメージ図（図13）は以下のとおりです。

表4 事業実施体制

事業内容	P-PFI				利便増進 施設
	公募対象公園施設		特定公園施設		
	必須 飲食の提供可能な施設	任意 左記以外の施設	必須 駐車場、公募対象公園施設周辺外構	任意 左記以外の施設	
整備	事業者		事業者		設置不可
管理運営	事業者		原則事業者*		—

※特定公園施設について、協議により管理運営を指定管理者に委ねられる場合があります。

図13 事業イメージ



#### 5 事業期間

公募設置等計画の認定の有効期間は、令和6年（2024年）4月1日から20年間とします。

なお、公募対象公園施設の設置管理許可の期間は、当初工事開始から令和16年（2034年）3月31日までとします。認定の有効期間内に更なる許可申請があった場合、認定の有効期間内の事業終了までの間で1回の更新許可を与えることとします。

設置管理許可期間には、公募対象公園施設の解体・撤去（原状回復）の期間も含み、事業を終了するときには、自己の負担にて解体・撤去（原状回復）を行って頂きます。ただし、本市が認定の有効期間終了後においても必要と認めた場合は、原状回復とせずに設置管理許可を更新（最長10年）すること等もありえます。

表5 事業期間

R6.1頃	R6.2頃	R6.8頃	R7.7頃	R26.3.31	
設置等 予定者の 選定	公募設置等 計画の 締結 認定	設計協議 期間	実施 設定の 締結	解体・ 撤去	
			工事		事業 終了
			供用開始		
			設置許可期間 (工事開始～R16.3.31)		
認定公募設置等計画の有効期間：20年 (R6.4.1～R26.3.31)					
基本・実施協定期間：締結から事業終了まで					